

「木質バイオマスエネルギー利用動向調査」の結果(速報)について

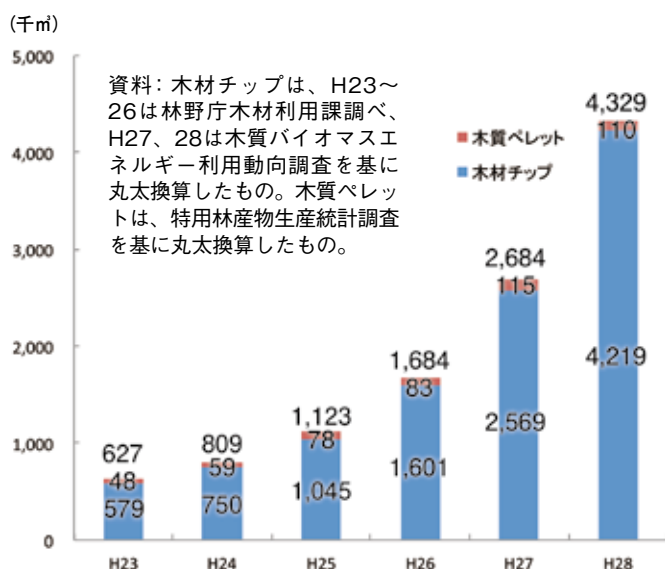
～平成28年における間伐材・林地残材等に由来する木材チップのエネルギー利用は192万トンで前年比64%の増加～

林野庁は、平成27年から、木質バイオマスのエネルギー利用動向を把握するため、木質バイオマスをエネルギー利用している発電機及びボイラーを有する事業所を対象として、「木質バイオマスエネルギー利用動向調査」を行っており、本年9月6日に、2回目の調査結果(速報)を公表しました。

調査結果では、平成28年にエネルギーとして利用された木材チップの量は、全体で773万トンとなり、前年から83万トンの増加(前年比12%増)となりました。このうち、国産の「間伐材・林地残材等」に由来する木材チップは192万トン(前年比64%増)となり、この量は、丸太換算(1t=2.2m³)で422万m³に相当します。このほか、「製材等残材」に由来する木材チップは165万トン(前年比16%増)、「建設資材廃棄物」に由来する木材チップは398万トン(前年比5%減)となりました。

国産の「間伐材・林地残材等」に由来する木材チップの利用量を都道府県別に見ると、上位5道県は、北海道(20万トン)、鹿児島県(19万トン)、宮崎県(18万トン)、大分県(12万トン)、島根県(10万トン)となりました。前年と比べると、29道県で合計81万トン増加する一方で、13府県で合計6万トン減少となりました。このうち、鹿児島県(14万トンの増加)、北海道(13万トンの増加)、大分県(8万トンの増加)、岩手県(5万トンの増加)、秋田県(5万トンの増加)などでは、木質バイオマス発電施設の稼働開始により、前年に比べ大幅な増加となりました。

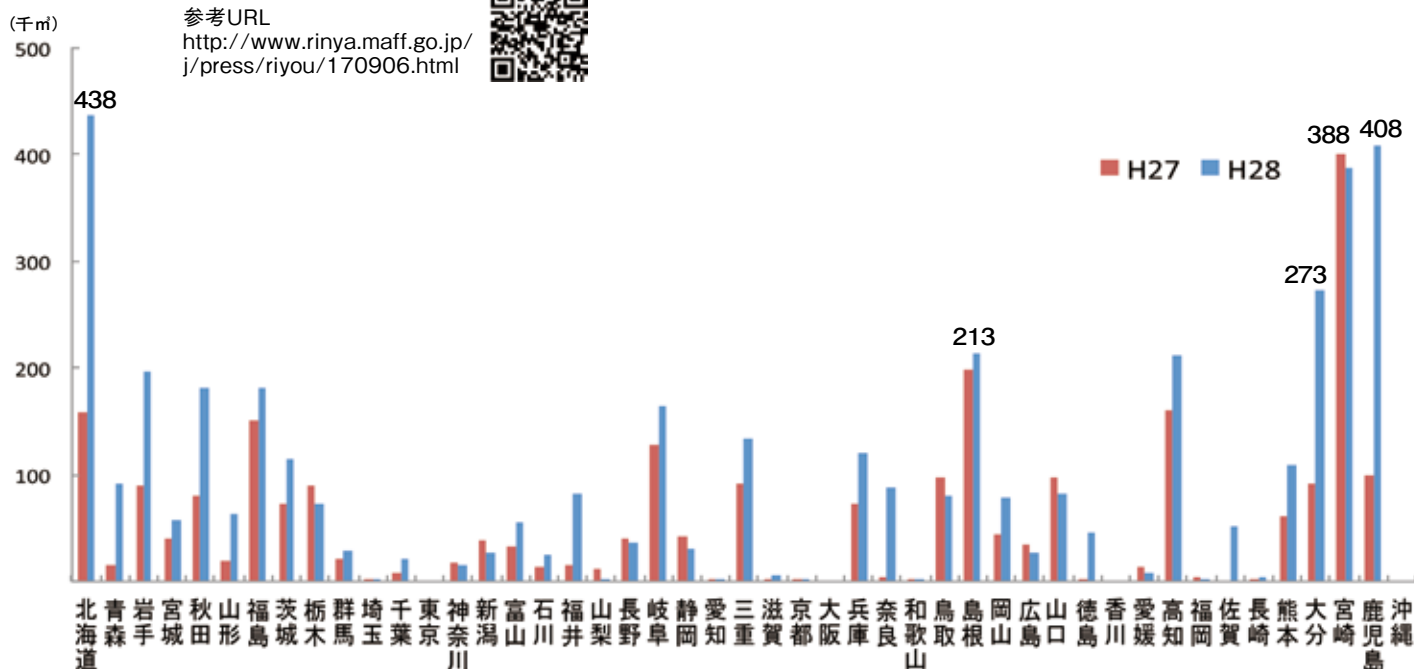
なお、調査結果のうち、木質バイオマス利用事業所や利用機器の種類等のより詳しい結果については本年12月に公表する予定です。



▲「間伐材・林地残材等」に由来する木質バイオマスのエネルギー利用量の推移

「平成28年木質バイオマスエネルギー利用動向調査」の結果(速報)について

参考URL
<http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/riyou/170906.html>



▲都道府県別の利用量の推移(間伐材・林地残材等に由来する木材チップ・丸太換算量)